

國學院大學學術情報リポジトリ

授業における動画利用の実際とその課題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-05-11 キーワード (Ja): 動画視聴, 意見交流, ICT, 読解, 授業実践 キーワード (En): 作成者: 深谷, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000359

授業における動画利用の実際とその課題

深 谷 優 子

本稿は、國學院大學での教職課程で開講されている『ボランティアと社会参加』の授業に文字ベースの資料に加えて、動画視聴を導入した試みについて報告するものである。「ボランティアと社会参加」の授業の概要と授業計画、そのなかでどの動画をどのような意図で視聴させたか、授業における動画利用の際に行った工夫とその効果と限界について、受講学生の視聴後の感想や意見などのコメントから考察する。

なお、今回の分析にあたっては、授業での動画利用についての調査研究ご協力のお願いとして、受講学生に対して動画を視聴してのアンケートでの皆さんのコメントを、調査研究の目的でのみ分析・検討すること、結果は個人が特定されない形で学会および論文等で発表予定であること、回答によってこの授業での成績などで利益／不利益な影響は受けないこと、を教示のうえで、授業での動画利用についての調査研究に「自分のコメントを利用してもらってかまわない」と回答した37名を対象とした。

授業の概要

國學院大學の教職課程で介護等体験に参加希望の場合、文学部・法学部・経済学部・神道文化学部の学生はガイダンス以外に「大学が独自に設定する科目」として開講されている『ボランティアと社会参加』（1年次開講・2単位）を受講し修得する必要がある（なお、人間開発学部の学生は『特別な教育的ニーズとインクルーシブ社会』（1年次開講・2単位）の修得が介護等体験参加の前提とされている）。著者は昨年度からこの『ボランティアと社会参加』を担当しているが、科目の性質上、シラバス作成および授業運営において悩むところが多い。2023年度の授業では、本科目が介護等体験参加の前提科目であること、授業者の専門性（心理学）を踏まえて「多様性尊重の共生社会とは」というテーマを設定し、専門家及び当事者をめぐる状況について理解を深めさせることを意図してインターネット上で入手可能な資料を多く用いることとした。

表1 2023年度開講『ボランティアと社会参加』（深谷担当）シラバスより抜粋

授業の実施形態	対面型授業
授業のテーマ	多様性尊重の共生社会とは 共生社会の多様性尊重と社会連帯の理念について学び、多様な社会的属性や個人的特性をもつ人々に対する理解と配慮とはどのようなものがあるか、知識と理解を深めます。
授業の内容	この授業では、福祉の現場の理解を深めるだけでなく、個人の多様性について理解し権利と尊厳への配慮に関する認識を深めることで、介護等体験実習の土台となる心構えを構築することを目指しています。
到達目標	1 個人の多様性について説明できる。 2 多様な背景を持つ者の権利と尊厳への配慮を具体的に考えることができる。 3 多様性尊重と社会連帯の理念について説明できる。

全15回の授業は前半と後半に分け、前半では主に社会心理学や発達心理学の研究知見を紹介し、後半では特別支援や介護等の現場、当事者をめぐる実際を見ていくなかで、本授業のテーマ「多様性尊重の共生社会」についてアプローチした。

前半の授業で扱った内容は、ボランティア活動とかかかわると考えられる「道徳性」「共感性」「寛容性・排他性」、差別や偏見とかかかわるとされる「集団」「社会的認知」、多様性を理解しようとするときに有用と思われる「複線径路等至性アプローチ」、などである。

後半の授業で扱った内容は、「老い」「認知症」など介護等の現場や実際について、当事者の視点からの「障害の社会モデル」「ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類）」「合理的配慮」について、様々な社会的属性や個人的特性をもつ人々との共生として「多様性尊重」や「地域福祉・ボランティア」「共生社会」について、などである。

本授業では教科書は指定せず、事前学習及び授業ではインターネット上で公開され入手可能な資料を多く用いた。閲覧させた資料は、官公庁のホームページに掲載されている資料や新聞記事等に加え、日本心理学会が一般向けに公開している「心理学ワールド」のバックナンバーも多く利用した。また、一部の授業においては動画も視聴させた。

授業の進め方として、基本的には事前学修として読む資料を指定し、その知識があることを前提として、対面での講義形式の授業を行った。授業後はK-SmappyIIにてMinute Paperを提出させ、動画視聴をする授業回ではさらにGoogle Formsでのコメント記入とその共有を授業時に行った。Minute Paper及びGoogle Formsは、提出後の修正が可能な状態にし、その旨受講学生にも周知した。なお、本授業の成績評価は、期末レポート50%、平常点50%で行い、「平常点」には、Minute Paperや授業での動画視聴時のGoogle Formsの記入提出も含まれることも、予め周知している。

事前学修の資料のURLや、授業者作成の授業資料、事後学修課題は、予めK-SmappyII

にて配布した。動画視聴をする授業回の場合、動画の URL と、視聴時に考えてもらいたいポイントも事前に提示した。ただし、事後学修課題は、受講学生各自が取り組んで理解や学びを深めることとし、提出はさせていない。

この 2023 年度後期水曜 1 限に開講された『ボランティアと社会参加』のうち、本稿では動画視聴をした授業回について報告する。授業中に動画を視聴させた回について、その動画の概要と選択理由で視聴させた動画を表 2 に示す。いずれも YouTube における放送事業体等の公式チャンネルに掲載されている（2023 年 12 月 15 日閲覧）。

表 2 本授業で視聴した動画一覧

	タイトル	チャンネル	公開年月日	言語	時間
1	Born good? Babies help unlock the origins of morality	CBS News	2012/11/19	英語	13:32
2	The healing power of music -How does music impact us?	DW Documentary	2022/05/16	英語	40:55
3	上海 70 岁母亲照顾渐冻症父女 30 年 年久失修的房屋能否变成无障碍的幸福居所？ / 梦想改造家 10 EP02	上海电视台官方频道	2023/09/06	中国語、一部日本語	1:25:03
4	第 169 回「芥川賞・直木賞」発表 芥川賞は市川沙央さん、直木賞は垣根涼介さんと永井紗耶子さんが受賞(2023 年 7 月 19 日)	THE PAGE	2023/07/19	日本語	2:51:54
5	Living with an extreme disability	DW Documentary	2020/01/14	英語、一部ドイツ語	12:30

本稿ではこれら動画の概要や選択理由、そして実際の授業進行、視聴後の受講学生のコメントから、授業における動画視聴の実際と課題について考察する。なお、分析にあたっては、授業での動画利用についての調査研究に「自分のコメントを利用してもらってかまわない」と回答した 37 名を対象としている（本授業の全受講学生数は 51 名）。この回答は、授業での動画利用についての調査研究の概要を説明した後、調査研究の目的でのみコメントを分析・検討すること、結果は個人が特定されない形で学会および論文等で発表予定であること、コメント利用の諾否の回答によってこの授業での成績などで利益／不利益な影響は受けないこと、を教示のうえ得られたものである。

動画 1 Born good? Babies help unlock the origins of morality (第 4 回授業)

動画概要

米国 CBS News によるドキュメンタリー番組「60 Minutes」で放映された動画。タイトルは「善は生まれつきか？赤ちゃんが解き明かす道徳性の起源」。YouTube の概要には “Can infants tell right from wrong? And if so, how would you know? Come to Yale's baby lab. Lesley Stahl reports.” とあり、日本語では「幼児は善悪の区別ができるのか？それはどのようにしてわかるのだろうか。イエール大学の赤ちゃんラボに聞く。Lesley Stahl によるレポート」の意となる。この動画は、Karen Wynn と Paul Bloom へのインタビュー、乳幼児・児童を対象とした実験の様子映像と解説などから構成されている。

動画選択理由

本動画を選択した理由は、私たちが何を「よい」「わるい」と考えるのか、善悪を判断し、善へ導く内的制御システムである道徳性について、アメリカの大学における乳幼児及び児童での研究知見をわかりやすく紹介したドキュメンタリーであったからである。差別や偏見が遍在してしまう背景として、そうした差別や偏見につながる考え方は非常に幼いときから見られること（生得的なバイアスとも言える）、しかし教育や社会的なかわりによってその状態は変わりうること、道徳性は発達していくと考えられること、など自身や他者についての理解を深めさせることを意図した。全編英語ナレーションであるが、自動生成の字幕が利用できる。

授業進行

この回の授業では、道徳性、共感性について学び、その後本動画を視聴した。視聴にあたり、自動生成の字幕を表示させた。また、数分ごとに区切り、授業者が適宜日本語への翻訳をし、内容についての解説を加えながら授業を進めた。

受講学生のコメントからの考察

動画では前半に乳幼児の研究、後半に児童を対象とした研究からの示唆を描写しているが、多くの受講学生は、乳幼児対象の研究知見と児童対象の研究知見の両方に言及していた。また、動画最後に Bloom 教授が述べていた、成人でもストレスやプレッシャーがかかると退行して教育や薫陶の影響がみられなくなってしまうことがある、というくだりへの言及や感想、意見も多く見られた。以下、コメントの例を示す（コメントはすべてママであり、編集・修正はしていない。以下同様）。

- a 食べ物の好みなどの恣意的なことですら身内と外を分け、身内が栄えるようにするという事に心当たりしかありませんでした。
- b 赤ちゃんの頃から善悪の判断ができること、内外の意識があることに驚きました。自分だけではなく他者の利益を望むようになるのは、教育だけではなく兄弟などの周りの人の影響も大きいのかと考えました。
- c 赤ちゃんも意地悪するやつは嫌いで、善悪の判断ができるのかと驚いたが、その

後のお菓子の実験で好みが分かれるほうは意地悪されてもいいという考えで、内集団と外集団の露骨な区別があることは少し怖くなった。しかし、教育によって他者を思いやったり、互いに豊かになる選択を選べるようになる。大人になっても小さい頃の考えが消える訳ではないが、受け入れつつも、少しでも善良な選択ができるように考えることが大切だと感じた。

- d 共感性というのは自分と相手のグループ分けを行うという機能がるという研究はとても興味深かったです。赤ちゃんがその能力を備えていることに人間の動物なのだということを感じました。また、社会性の獲得によって本能的な部分が覆い隠されていくことに人間の生物としての特異性と教育の意義を感じました。
- e 生まれて数ヶ月の幼い頃から自分と異なる意見を持つ人が罰されるのをいいと思う感情があることを知って驚いた。動画で言われていたように、切羽詰まったりしてそういった部分が出てきてしまうことがないように余裕を持って生活したいと思った。

コメントの例からは、これ以前の授業で学んだ集団（内集団、外集団）についての知識を適用しようとしている様子もうかがえる。本動画は全編英語ナレーションであったが、実際の実験の様子が映されていたことから、内容を誤解したコメントは見当たらなかった。この二点から、この授業回及び受講学生に適した動画であり、効果があったと思われる。

動画2 The healing power of music -How does music impact us? | DW Documentary (第7回授業)

動画概要

ドイツ Deutsche Welle によるドキュメンタリー。動画タイトルは「音楽の癒しの力：音楽は我々にどのような影響を及ぼすのか」。この動画は、音楽を導入することの効果、NICU (Neonatal Intensive Care Unit) の低出生体重児、幼稚園での幼児、スポーツ選手、移民・難民となった子どもたち、パーキンソン患者、認知症患者などさまざまな対象や状況・場面で見えていくものである。動画は全編英語によるナレーションであり、ドイツ語によるインタビューには英語による翻訳がつく。

動画選択理由

動画のうち、授業では認知症の患者に対する音楽療法の実践がもたらす効果の映像部分を視聴させ、受講学生がもっている「認知症」についてのイメージや考えを見つめなおさせることを意図した。

授業進行

この回の授業では、「老い」「認知症」を取り上げ、まず「加齢に伴い向上・維持する能力」の知見を学び、「老い」について自分のもっていたイメージや考えを再考させた。続いて「認知症」について、動画のうち認知症患者に対する音楽療法の部分を視聴させ、「認知症」

について自分のもっていたイメージや考えを再考させた。本動画は、自動生成の字幕／文字起こしが利用可能であり、視聴時には字幕を利用した。また、授業者が適宜動画を一時停止して、日本語への翻訳や内容の解説を加えた。

受講学生のコメントからの考察

動画視聴後のコメントでは、認知症に対するイメージや考えがより具体的になり身近に感じる受講学生が多い様子が見られた。以下、コメントの例を示す。

- f 私は認知症に対して、人生自体があまり楽しくなくなってしまうような障害に近いものだと思っていました。しかし、音楽療法などで楽しかったころの記憶を思い出させることによって脳を活性化させることで、その場で私たちと一緒に何かを楽しむことができるということに驚きました。なので、認知症は障がいに近いかもしれないけど、私たちの常に隣にいるような存在に思えました
- g 認知症に対するイメージは、意思疎通やコミュニケーションを取るのが難しいというものでしたが、認知症の方が音楽を通じて自分自身を表現したり、施設の方が音楽で体を流すことを促す様子から、人対人だけでは成し遂げられないことも音楽を用いることで可能になるのだと驚きました。
- h 認知症になってもすべての物事が覚えられなくなるという印象を持っていましたが、若いころに好きだったもの（ダンスなど）は強く記憶に残っており、それらと結びつけることで脳が活性化され記憶力の向上につながるのだと分かりました。そのためにも若い時には一つのことに没頭するのもよいことですが、沢山の趣味を持つことも必要なのではないかと考えました。

また、動画視聴では音楽療法についても印象的であったようで、その効果の具体的な記述も多く、以下のようなコメントがあった。

- i 感情と記憶がリンクしていてその記憶を音楽が刺激するという仕組みが面白いなと感じました。
- j 音楽を聴いてから、手が動いたり、音楽にのっていたりしていると印象に残った。言葉を発せなくても、音楽によって耳から脳にポジティブな記憶に働きかけられて、病気の症状の進行が遅くなったり、忘れてしまったことが思い出されたりということに驚いたから。
- k 全員に同じ音楽を聴かせるのではなく、それぞれの好みに合わせて変化させている点が印象的でした。また、その音楽のおかげで散歩やリハビリなど様々な行動にチャレンジするきっかけにもなっているのが驚きでした。

なお、授業前半で扱った老いに関する記事についてのコメントも以下に示す。

- l 高齢になることを、身体能力が衰えてしまうということではなく知識や教養が増えるという捉え方をしているのが、そのような着眼点があったのかと思ひ印象に残った。
- m 記憶力そのものは二十代をピークにして衰えていくのに、連合的知識が向上していくということが印象的だった。知識の蓄積というのは老いにも抗うことが出来るのかと思ひ驚いた。また、連合的知識を用いれば60代の人でも大学生に記憶力で勝つことが出来ることに、年をとっても衰えていくだけではないのだと希望を感じた。

今回の動画も全編英語であったのだが、言葉でのコミュニケーションが十全に行えるわけではない対象者が扱われており、その場合、映像や音声・音楽での描写で十分理解することができたようであった。なお、授業前半の老いのところで扱った資料は学会シンポジウムの報告であり、分量的にはやや多かったものの、会話体での文章であり、おそらく読みやすかったからか、間違いや不適當なコメントは見当たらなかった。

動画3 「上海 70 歳母親照顾渐冻症父女 30 年 年久失修的房屋能否变成无障碍的幸福居所？ / 梦想改造家 10 EP02」(第8回授業)

動画概要

中国上海电视台によるリアリティ番組。YouTubeでのタイトルは「上海 ALSを患う父と娘を30年間介護してきた70歳母親 老朽化した家をバリアフリーで幸せな住まいに変えられるか?」。この動画は、上海在住の顔面肩甲骨型筋ジストロフィー (FSHD) の患者家族の自宅改造についての中国語でのドキュメンタリーである。全編中国語のナレーションと字幕がつくが、設計担当は日本人建築士であり、ところどころ日本語での説明が入っている。

動画選択理由

本動画は、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」とされていても特定の人にはバリアがありうること、疾病について理解することでその当事者の抱える困難についても理解しやすくなることを実感させるのに適していると思われた。また、特に洗面・トイレ・浴室といった水回りの改造に焦点を当てることで、家のリノベーションによって(病状は変わらなくても)活動レベル(実行状況)や参加レベルが変わりうる様子が撮影されているため、障害の社会モデルやICFモデルについての理解を深めることにも有用と判断した。

授業進行

授業では、障害の医学モデル、社会モデル、統合モデルについて学び、その後動画を視聴した。視聴前に、動画の当事者の状況を理解させるため、診断されている顔面肩甲骨型筋ジストロフィー (FSHD) の症状や治療法などについて資料を見せながら確認した。動画は長時間にわたるため、日本人建築士による日本語での解説が入るところを3か所選択して視聴させた(ニーズの聞き取り、リノベーションプランの検証、完成後の様子)。

動画視聴時は、授業者が適宜日本語への翻訳や状況についての解説を加えた。

受講学生のコメントからの考察

動画視聴において印象的であったことのコメントは、かなり多様であった。以下にコメントの例を示す。

- n 洗顔や排泄だけではなく表情を変えることすらも難しいという点が私は特に意識せずとも出来ていることである為衝撃的でした。その上で、その人に最適な設備を作り上げることの重要性を理解することが出来ました。
- o 普通の高齢者の筋力の衰えと違い体をひねることも難しいと話していた箇所が印象に残った。バリアフリーは、すべての人にとって過ごしやすい環境をつくるものであると思っていたので、それを不便と思う人も存在しているということが学べてよかった。親子で同じ病気を患っているということだったが、お父さんと娘さんでもかなり活動可能範囲が異なっていて、障害のレベルも本当に人それぞれで、その人にあった生活スタイルをつくる事は健常者が多数派の社会ではとても難しいことであると感じた。シャワーに椅子がセットになっているバリアフリーデザインを見て、足腰の弱っている人にはこれ。といったデザインが固定で存在してしまっていることを受け、障害に対する偏った考えが存在してしまっている事の重大さを改めて考えさせられた。
- p シャワールームで他の人にとっては使いやすい機能が、特有の障害を持つ方たちにとっては不便なものに変わりうることに驚きました。
- q 車椅子で家の中を移動しているのを実際に見てみて、色々な場面で引っかかっていたり、時間がかかっていたり、不便そうにしている場面が多かったこと。これまで車椅子で生活している人を深く見たことがなかったので、ドアの幅が狭いと不便に感じたり、足に力が入らないので滑りやすいお風呂場などは時間をかけて気をつけないといけなかったり、生活者目線で実状を知ることが出来た。自分の認識の甘さを知ることができた。
- r 障害の多様性を理解するためには、より相手の視点に立ち、その人たちからさまざまなことな意見を聞くべきだと考えた。今回の動画のように障害を持つ人に生活レベル・活動レベルを合わせてリフォームすることはまさに必要な事項の一つであると思う。私たちから寄り添い、考え合うことが今の社会を変えるきっかけになると考えました。

本動画は基本的に中国語のナレーションと字幕であったが、授業で視聴した部分がトイレや浴室での様子なので見て理解しやすかったこと、視聴前に当事者の病気の特徴について日本語で読んでいたこと、視聴部分には日本人建築士による日本語での解説が入っていたことなどが奏功して、受講学生は各自の理解を深めることができたようであった。

動画 4 芥川賞受賞作家 市川沙央さんの受賞会見動画 (第 10 回授業)

動画概要

2023 年の芥川賞と直木賞の受賞者発表及び受賞会見動画で、Yahoo! ニュース オリジナル THE PAGE (ザ・ページ) によるライブ配信された。

動画選択理由

先天性ミオパチーの当事者である市川沙央さんの芥川賞受賞会見 (日本語) で言及された「当事者性」「読書バリアフリー」について受講学生に考えさせることを意図した。また、その報道記事も複数利用できることから、実際の会見動画と報道記事との乖離を実感するのにも適していると判断した。

授業進行

授業で視聴できる時間が限られていることから、予め市川沙央さんの受賞会見部分について一度視聴するよう指示した。そのうえで、授業では一部の質疑応答部分を視聴させた。なお、本動画視聴時には字幕表示はしなかった。字幕に頼らずに映像と音声から感じ取ってほしかったことと、会見で各自が聞き取った市川沙央さんの言葉と報道記事で市川沙央さんの言葉として書かれていることとの違いを意識させるためである。3 社の報道記事 (NHK、東京新聞、毎日新聞) を提示し、そこで「当事者性」がどのように報道されているのか、その過程で元の会見から何が失われたのか、何が報道各社によって付加されているのかを考えさせた。

受講学生のコメントからの考察

動画視聴後のコメントでは、発言の内容に加えて、市川さんの たたずまい や様子について言及したコメントも見られた。これはおそらく、発言の聞き取りにくさがあったことと、動画自体のインパクトが強かったことの両方が作用していると思われる。

- s 姉の話をする際に周りがすっと静かになっているのが印象的だった。また、顔の角度や腕の細さ、声なども印象的だった。
- t とても快活にしゃべられているのが印象的でした。作品は読んでいないのですが、障がいを持つ人の生活がリアルに表現されているとのことだったので、彼女の人柄が現れているのではないかと思いました。また、のどの装置を抑えながら話されている姿からは、不自由なことを不幸だと捉えるわけではありませんが、私たちの生活にはない苦労や努力があるのだと感じました。
- u 市川さんが「読みたい本を読めない」とおっしゃっていたことにハッとさせられた。私は読書が趣味であるので、気になる本を読むまでの過程が健常者と比べていくつも壁を越えなければならないことを辛く、悔しく、妬ましく思うのであろうな、と想像した。
- v もう 1 つは「読みたい本を読めないのは権利侵害」という発言です。盲目の方に向けた点字の本の存在は知っていますが、その他の様々な病気を患っている全て

の人が本を読む環境となるとまだまだ全然整備が進んでいないと思うし、それが権利を侵害しているという考えには今まで至らなかったのも、障害の有無にかかわらず読書を遂行できる環境がこれから整えられていくといいなと思ったからです。

- w あまり関係ないが、同じタブレット端末を使用していて親近感が湧いた。パソコンのソフトだけではなく、馴染み深いタブレット単体でもできることが増えるといいと思う。

その後、3社の会見の報道記事を読んだ後のコメント例を以下に示す。

- x 報道記事を見て先の動画で聞き取れなかったところでどんなことを言っていたのかが分かりましたが、この報道記事では会見で言っていたことに対して少し付け加えられていたりして報道記事を見るだけでは市川さんが本当に伝えたいことを理解できないのではないかと考えました。報道記事では記者が読者をこの答えに導きたいという意図が出てしまうことがあり、会見で言ったことをその答えを導く為の証拠のようなものとして使われていることがあるのではと思いました。
- y 記事は実際の会見よりもわかりやすくしている。またNHKなどは自分の記事に書きたい答えを市川さんから聞き出したいような質問であった。そこから会見と記事では少し違いが感じられるものであった。本人が言っていたことに加え、記事を書いた人間の言葉や解釈が加えられていると感じる。動画と比べ、記事は私たちにとってストーリー性があり、テンポもいいので読みやすいが、会見は実際の声から感じるものがあつたり、伝えたいことを記者を挟まないで自分が理解することができることを学んだ。
- z 偏った視点に立っていると、その裏側に広がる多くの実状に気づくことが出来ないということを学びました。自分は読書をする上で何一つ不自由を感じたことがなかったため、読書をするのに苦勞を感じている人の存在は今回の質疑応答を聞いて初めて知り、自分の視野の狭さを痛感しました。今回は障害の有無についてですが、他にももっと自分が気づかないだけで不便を感じている人がいると思うので、広い視野を持ち一つひとつ環境の整備が進んでいくと良いと考えました。

市川沙央さんは人工呼吸器を装着していることもあり、発話自体が本人にとって負荷が大きい様子であること、また日本語が話されているのに聞き取りづらい、わからないという感覚に言及した受講学生もおり、音声と映像で感じ取った「情報」から、文字のみでの情報への変換について、考える契機になったと言える。

動画5 Living with an extreme disability | DW Documentary (第11回授業)

動画概要

ドイツ Deutsche Welle によるドキュメンタリー。動画タイトルは「重篤障害とともに生きる」。この動画は、5歳のときに事故がもとで重度障害者となった10代の息子と暮らすドイツの家族のドキュメンタリー番組であり、彼らの「日常」生活が描かれている。動画では、事故の前後の家族について、彼らの「日常」について、当事者本人に最も近い両親や姉妹が語っている。動画では家族はドイツ語で語っているが、全編英語でのナレーションがつき、字幕も利用できる。

動画選択理由

「当事者」とのかかわりの実際について、理解を深めることを意図した。また、息子に対する今後のプランとして、“Inclusive flat share (Inclusive living、同年代の障害のある人となない人が共同生活を送る。一般に、成人年齢に達した青年が行う flat share と同様の生活)”での生活も選択肢にあると語られていることから、日本以外の国の「当事者」とのかかわりの実際についても知識が得られると判断とした。

授業進行

まず動画を字幕つきで視聴した。適宜、授業者が日本語の翻訳と状況についての解説を加えた。また、この回の授業ではもう一つの事例として『「経済的な自立」が目的ではない…父親がわが子を「自閉症アーティスト」として売り出す本当の理由』という記事について読み、「当事者」とのかかわりの実際について、家族のありかたや支援の事例を知るなかで、どのような支援や指導が可能か考えさせた。

受講学生のコメントからの考察

動画視聴後のコメントでは、出演した家族の「日常」である食事の場面、妹たちが寄り添って動画を見ている場面、介護スタッフ、両親が立ち上げたNPOなど、短編の動画の様々なポイントが印象的であったとのことである。以下、コメント例を示す。

- A 食事をチューブでとるにも関わらず家族みんなで食事をしている場面が印象に残りました。経口で食事をするのが出来ないのなら別室で食事をとっても不思議では無いと思ったからです。あくまで今まで通りの日常として家族と食事の時間を過ごし、突然身体が不自由になってしまった人が自分自身を塞ぎ込んでしまわないようにしているのかなと思いました。ずっと健康なからだで生きてきたのに事故で障害を抱えてしまったということはそれだけ心のダメージも大きく整理も付きにくいと思います。そんな中で今まで通りに接してくれる家族の存在は大きいのかなと感じました。
- B 親兄弟含め、皆が皆支え合って生活している様子が印象的であった。親が学校に通わせるために一時間もかけて準備を整えるというのも驚いたが、それ以上に兄弟たちが兄に対して何を学んだか教えてくれたりと支援している姿が見られたの

が衝撃的であった。妹が家族は皆平等に扱われているといったニュアンスの発言をしていたように、きっと誰一人として義務感で面倒を見ているわけではないのだろう。そういった点で「大変だが満足している」という最後の一言が印象的であった。

- C 介護士の人が朝食からずっと付きっ切りだったところが印象的だった。日本だと家での介護などで胃痙をする場合でもできるなら子供や親がやっていることが多いと思った。食事など家での介護は家の人がするべきという古い決めつけや考え方がまだあるのかもしれないと思った。最後の言葉で介護するひと、される当事者の幸せを決めつけるのではなく個人や家庭に寄り添って考えていくべきだと思った。
- D 両親の方々がNPOをつくり、同じような環境にある障害者の親を支援する活動をしているところが最も印象に残った。行政的な障害者支援や社会福祉施設の充実、主として政治家たちが決定することではあると思うが、こうした民間の当事者利益集団は、こういった大きなものではカバーしきれないことを細かいレベルで配慮し実行していったり、政治家たちへの要請・請願という面でも大きな力となると感じた。

次の事例の、知的障害のある息子をもつ父親についての記事に対しては、お金に関する部分についての反応が多く、当事者のため、当事者の利益とは何か考えを深めたようであった。以下、コメント例である。

- E GAKUの父は目の前のことだけでなく長期的に将来を見据えている。自分が死んでしまったあとの息子の金銭的な面を心配しアムパートナーズというサービスを始めるなどアーティストとして息子を売り出すのは、お金を稼ぐことが目的ではなく、息子の活動を継続的に支えることだと知って納得した。
- F GAKUさんの父親の「知的障害者には貯金はいらぬ」という趣旨の考え方が印象に残りました。健常者から障害者に視線を向け、何かを捉えるということの難しさを感じました。また、常に助けを必要とする障害者と、その自力的な克服が要請される健常者の根底にある「経済的自立」というものに対する前提の違いというのを知ることができました。
- G 「多分 Gaku には、大きな桁の金額が何を意味するかわからないだろう」や「自分の口座にお金があったところで、自らお金を管理して物件を借りてひとり暮らしをするというようなことはしないからだ」等のコメントから、物事を正しく理解したり判断したりして行動するような認知の部分で、障害を持たない人に比べて困難さがあることを事例を通して学べた。だからといって、全て親が金銭管理を行なってしまい、親がいなくなってしまう時のことを考えると不安要素がたく

さんある。そのため、金銭管理支援や日常生活の自立支援等をうまく活用することによって、当事者と当事者の周りの人たちの不安要素を少しでも取り除けると考えた。

一方、記事の内容よりも見出しに引きずられてしまったコメントも少なくはなかった。授業で扱った記事では、見出しに「自閉症」とあるものの、本文では一貫して息子のことを名前か「知的障害を持つ子ども」「知的障害者」などと言及して語っており、自閉症という言葉は実は一切出てこない。さらに言えば、授業では、当該記事を投映し、読み上げ、そして見出しと内容が乖離していることにも直接言及し、本文をよく読むよう教示した。にもかかわらず、今回の対象者 37 名中 8 名が息子に対して「自閉症」としてラベルづけたコメントをしていた。たとえば、「自閉症と引き換えに大きな才能を得て、それで活躍していることは素晴らしいし、今後も伸ばしていくべきだと思う。障害を持つ人は代わりに大きな才能を持つことが多々あるので、そこを生かして生きるというのは素晴らしいと思う」などである。

見出しと本文の乖離は授業者が意図した操作ではなかったが、とくにインターネットの記事や動画の場合、見出しはクリックさせるように興味関心を喚起させるものだが実際の記事や動画の内容とは乖離している可能性もあるが、見出しのみを見て理解したつもりになる受講学生が一定数いることは、授業においても留意する必要があると思われる。

討 論

動画利用時の授業者の工夫とその効果

言語理解の補助・工夫：表 2 に示したように、本授業で利用した動画は 5 本中 3 本が英語によるものであった。英語の動画視聴時には、自動生成も含め、字幕が利用可能であり、必ず英語字幕表示を行っていた（自動生成の際、誤った単語が生成されている場合も散見されたが、それでもないよりはあるほうが受講学生に益があるという判断で字幕表示を続けた）。英語及び 3 の中国語の動画については、適宜一時停止して、授業者による翻訳や解説を加えていた。なお、4 の日本語の動画については、聞き取りが少し難しいものの授業意図を踏まえて敢えて字幕は表示しなかった。さらに、動画の URL は学生への配布資料に記載し、授業後に自分のペースで視聴し理解を深められるよう配慮した。動画の再生スピードの調整の仕方、自動文字起こしの機能の利用の仕方、ブラウザや AI 翻訳サイトを利用した翻訳の仕方についても紹介した。

こうした言語理解の補助・工夫は、従来より続けてきたことであり、実際これまでの授業においては奏功して、多くの受講学生が動画で語られて描写されている内容について、十分意見や感想、コメントを生成していた。今回も、受講学生からの意見や感想、コメントは授業者の意図したポイントで思考を深めているようであり、動画視聴の効果は、日常

的に接するわけではない対象や事例についての知識を得るのに一定の効果は見込めると思われる。

特に、4の市川沙央さんの会見動画は、日本語であること、報道記事が複数あることから、実際の動画とその報道記事との比較を通して、生の映像から切り取られてしまう言葉や情報があること、異なる文脈や意味づけが付加されうること、がより鮮明に理解できたようである。

授業における動画視聴の課題と今後の展望

しかしながら、授業での動画視聴について考慮すべき課題もある。まず、動画視聴を授業に導入する際には、その動画が信頼できるものであるか、その判断を行う必要があるが、その困難さが課題として挙げられよう。利用可能な動画自体は世の中に数多く存在しているものの、授業での利用に耐えうるような、内容や構成が信頼できる動画であるかの判断は、難しい。場合によっては、動画が削除されたり広告が大量に入ったりしてしまう。今回は、テレビ局等既存のマスメディアが運営している公式チャンネルに掲載されている動画を選択することで、この信頼性を担保しようとした。

課題の2点目は、動画が当該授業及び受講学生に対して適切な水準であるかの判断の困難さが挙げられる。動画の言語的理解について以上に、授業目的に照らして、また受講学生に対して、動画が適切であるかの判断は実は難しい。今回、それぞれの動画利用の意図、受講学生に考えさせたいポイントは明確であり、いずれも事前に開示して、さらに授業での視聴時にも授業者が翻訳や解説を行っていたものの、視聴後の Google Forms や Minute Paper での記述にはかなりの個人差があり、その背後には「そもそも質問の意図が読み取れていない」「質問の意図はわかっても対象の動画の内容の理解が不十分」「動画の理解の言語が不十分」など、いろいろな状況が考えられる。この場合、「指示された作業内容の理解」「動画の言語的な理解」「動画内容の包括的な理解」のそれぞれに対して、配慮する必要があるだろう。

こうした課題からは、動画選択の難しさと同時に、受講学生の動画視聴の読み取りに個人差があることも示唆される。動画には映像と音声・音楽が含まれ、字幕表示をした場合は、さらに文字の情報も加わる。こうした、動画に含まれる多くの情報のどこにどのように注目するか、結果として何を理解し記憶するか個人の差が大きかった。教師研究において、教師の熟達程度によって、授業風景を見ても着目するところ、解釈が違うことはよく知られているが、同様の動画の読み取りの能力の個人差が今回用いた動画の読み取りにも現れていると言える。

今回報告した動画視聴をふりかえると、表層的なところ、使われている言葉などの目立つ部分に注目する受講学生がいる一方、所作など語られているわけではない情報を読み取り受け止める受講学生もいた。読み取ろうと思えば多くの情報を利用することができる、動画は実に情報が多いいものなのだと感じる。そしてその動画の読み取りのスキルあるいは

能力とは、個人差があること、同時にそれは熟達しうるものであると考えられることを踏まえて、今後の実践を検討したい。

最後になるが、動画を用いた副次的な効果として、メディアを通じてニュースや情報を得るということは、その情報が（映像も含め）多くは編集・加工されている可能性があり、したがって実際・実物・実像のごく一部であったり異なるものであったりする場合があるというメッセージを明確に伝えることができた点も指摘できよう。視聴した動画は編集されていること、ライブ動画でさえ、例えば視点視野が異なること、こうしたことに気づくことで、改めてメディアを通じて知ること学ことと、実際にその場において直接体験して知ること学ことの価値を考えることになる。介護等「体験」に対する受講学生の心構えにもつながるのではないかと期待する。

文 献

- CBS News. (2012, November 19). Born good? Babies help unlock the origins of morality [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=FRvVFW85IcU>
- DW Documentary. (2020, January 14). Living with an extreme disability [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=KyhUqTQsh6I>
- DW Documentary. (2022, May 16). The healing power of music -How does music impact us? [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=QpeWTKvMucY>
- 佐藤典雅. (2023). 「経済的な自立」が目的ではない…父親がわが子を「自閉症アーティスト」として売り出す本当の理由. PRESIDENT Online. Retrieved December 15, 2023, from <https://president.jp/articles/-/73253>
- SMG 上海电视台官方频道 SMG Shanghai TV Official Channel. (2023, September 6). 【#梦想改造家10】上海 70 岁母亲照顾渐冻症父女 30 年 年久失修的房屋能否变成无障碍的幸福居所？ | 梦想改造家 10 EP02 | 【SMG 上海电视台官方频道】 | Full [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=vLjFJ3ddhug>
- THE PAGE (ザ・ページ). (2023, July 19). 第 169 回「芥川賞・直木賞」発表 芥川賞は市川沙央さん、直木賞は垣根涼介さんと永井紗耶子さんが受賞 (2023 年 7 月 19 日) [Video]. YouTube. <https://www.youtube.com/live/oP2rYT0GmTU>

